



◀かつての清巖寺(左)と荻の丘幼稚園(上)清巖寺蔵



古いまちの呼び名と
こぼれ話を紹介します



天正元年(1573年)、芳賀高継が宿郷村にあった念仏堂をこの地に移し、芳賀氏の本姓の清原氏の清の字を取って、清巖寺としました。この寺院の門前に町並みができただので、清巖寺町の名が付けられました。明治時代の初め頃、清水町となりました。昭和20〜30年ごろのこの辺りの町並みは、細い路地がたくさんあり、通り沿いには長屋が建ち並んでいました。

そして、国指定重要文化財の鉄塔婆や、市指定有形財の甘茶祭りなどの、お寺の年中行事にも参加できました。今思えば、本当に貴重な体験ができたのだと思います。

清巖寺通りを歩くと、親子2代で通った幼稚園を懐かしく思い出します。



東端田1丁目
福田 通孝さん

文化財の銅鐘などがあることで知られている清巖寺には、かつては、荻の丘幼稚園という幼稚園が併設されていました。毎日、親と手をつないで通っていたことを思い出します。園児たちは、本堂や呑龍堂で学び、鉄塔婆の周りや桜や梅の木の下で遊んでいました。そうした日常生活の中で、親子の触れ合いや、物を大切にすること、感謝する気持ちなどを教えられました。

また、運動会も本堂の前庭で行われていましたし、甘茶祭りなどの、お寺の年中行事にも参加できました。今思えば、本当に貴重な体験ができたのだと思います。

清巖寺通りを歩くと、親子2代で通った幼稚園を懐かしく思い出します。

はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

大好きなそろばん
目標はいつも満点

「全国にすごい人たちがたくさんいたので、まさか1位を取れるとは思わず、てびっくりしました」と、受賞の瞬間のことを振り返る小川理緒さん。昨年11月から12月にかけて行われた「全国そろばんコンクール」小学3年生の部で、見事に第1位を獲得しました。また、今年5月に行われた「そろばんグランプリとちぎ2014」でも、個人競技ジュニア部門(小学6年生以下の部)で、堂々の2年連続優勝を果たしました。「優勝以上に、目標にしていた満点を取れたことがうれしい」と話します。

一度始めてみると、とても楽しくて、以来夢中で取り組んできました。現在は、週に4回、珠算塾に通い、塾の無い日も1時間以上の自主練習に意欲的に取り組んでいます。

「そろばんは面白い。練習は大変だけれど、コンクールやグランプリでいろいろな人たちと競い合うのが楽しい」と、まっすぐな瞳で語ります。

今月行われる「全国あんざんコンクール」に向けて、「目標は満点をとること」と、力強く話します。

将来は「みんなが、そろばんが楽しくて、来るのが楽しみにするような、そろばん塾の先生になりたい」と笑顔で話す理緒さんの表情は明るく輝いていました。



横川東小学校
小川 理緒さん